THREE-WHEELED AUTOMOTIVE VEHICLE

Patent Number:

JP59195421

Publication date:

1984-11-06

Inventor(s):

KOMURO KATSUSUKE

Applicant(s):

HONDA GIKEN KOGYO KK

Requested Patent:

☐ JP59195421

Application Number: JP19830069414 19830420

Priority Number(s):

IPC Classification:

B60K15/02

EC Classification:

Equivalents:

Abstract

PURPOSE:To suppress fluctuation in a center of gravity due to change in an amount of fuel, and thereby to stabilize characteristics, by locating a fuel tank at a position of the center of gravity of a vehicle or in the vicinity thereof.

CONSTITUTION:A fuel tank T is located on a reinforcing frame 3 for reinforcing a central portion of a main frame 1 and at a front seat Sf. The front seat Sf is arranged near a rear seat Sr in a row. Thus, the fuel tank T is arranged at a position of a center of gravity of a completed three-wheeled automotive vehicle or in the vicinity thereof, and accordingly it is possible to eliminate fluctuation in the center of gravity of the vehicle due to change in an amount of fuel in the fuel tank T and thereby to stabilize characteristics.

Data supplied from the esp@cenet database - 12

19 日本国特許庁 (JP)

⑩ 公開特許公報 (A)

^⑩特許出願公開 昭59—195421

⑤ Int. Cl.³B 60 K 15/02

識別記号

庁内整理番号 7725-3D ❸公開 昭和59年(1984)11月6日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑤三輪自動車両

②特

類 昭58-69414

@出

願 昭58(1983)4月20日

仰発 明 者 小室克介

調布市若葉町1-21-3

⑪出 願 人 本田技研工業株式会社

東京都渋谷区神宮前6丁目27番

8号

個代 理 人 弁理士 落合健

明 細 ※

1. 発明の名称

三輪自動車両

2. 特許請求の範囲

車体の前、後に三車輪を懸架した三輪自動車両 において、該車両の重心位置、もしくはその近傍 位置に燃料タンクを配設してなる、三輪自動車両。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、車体の前部に二車輪、その後部に一車輪、もしくは車体の前部に一車輪、その後部に 二車輪を爆架した三輪自動車両に関するものである。

一般に前記三輪自動車両では、その重心位置が 車両の加速性、コーナリング性等の特性を左右する 要因となつており、予め設定された重心位置が軍 体上の梁装物の重油変化によつても変らないよう にすることが設ましい。

ところで車体フレームに搭載される燃料タンクは、その中の燃料の貯留量によつて、その車がが大きく変化し、特に軽車両では、燃料タンクの占める重量割合が大きいので、燃料タンクの位置が車両の惠心位置の変効要因になるが、従来の三輪自助車では、燃料タンクの配数位置について特別の配慮が施されていなかつた。

特開昭 59-195421(2)

本発明はからる実情にかんがみてなされたもので、三輪自動車両の重心位置、もしくはその近份に燃料タンクを配設し、該タンク内の燃料の貯留 量の増減によつても車両の重心位置に変動が無い ようにして単両の等性の定常化を図るようにした、 三輪自動車輪を提供することを主な目的とする。

以下、図面により本発明 % の1 実施例について 説明する。

三億自勁車の車体 B の 骨格部を 存成するメインフレーム 1 は間隔をあけて前後方向に延びる一対の 政術 1 a , 1 a と、それらの 疑術 1 a , 1 a の 前、 後端を一体に 結合する前、 後横桁 1 b , 1 b により 存成されており、 そのメインフレーム 1 に 床板 2 が 致 設される。

前配一対の凝桁 1 a , 1 a の中間部は外側方に 向けて適曲されて幅広に形成され、その内側は方 形状の補強フレーム 3 によつて補強される。

右前 単輪 F , F f が 換向可能 K 穏架される。即ち該フレーム 4 の前端 K は前部支持 軸 8 がナイトハルトクツション機 様を介して回動可能 K 横梁され、この前部支持 軸 8 の両端 K は、クランク状のパワーユニット P が上下 K 揺動可能 K 軸支される。 該パワーユニット P の 立 の 車 地 が 支承される。

が成けられるとともにその左、右側部9,9には、 前記エンジンBに速動される動力伝達機構が内装 されており、エンジンBの駆動力は動力伝達機構 をして左、右前車輪Ff、Ffに伝達される。

また車体 B の後端には、仮部支持軸 1 1 が 機架され、この後部支持軸 1 1 の両端にはナイトハルトダンパ機械を介してリヤフォーク 1 2 が上下に協助可能に軸支され、破リヤフォーク 1 2 に一つの意単倍 F r が 歴 架 される。

メインフレーム1の前部には、車筒支持フレー ム4が結合されるとともに前部ロールパー5が結 合され、この前部ロールパー5は、前後に間隔を あけて設けられるアーチ状の2本の横パイプ5 4, 5 Δと、それらの機パイプ 5 α , 5 Δの上方中央 部を結合する桜パイプ50とより構成される。ま た前部ロールバー5にはステアリングステム6が 支持される。メインフレーム1の後部には後部ロ ールパー1が結合され、この後部ロールパー1は、 前後に間隔をあけて設けられるアーチ状の2本の 做パイプ1a,1ょと、これらの横パイプ1a, 7 4 の上方中央部を結合する縦パイプ 7 0 とより 構成される。また前方の横パイプ 7 a はその途中 が下に向けて屈曲されてその下半部 7'a は前方に のびてメインフレーム1に対する傾斜がなだらか になつている。

車輪支持フレーム4の左、右には、対をなす左、

メインフレーム1の中央部を補強する前配補強フレーム3上に燃料タンクTが搭載される。而してこの燃料タンクTは、第1図には示されない必要部品を取付けた完成車としての三倍自動車の重心位置、もしくはその近傍に配設されるもので、 該燃料タンクT内に収容される燃料の増減によって三倍自動車の重心位置が変ることは殆んどない。

第2、3図に示すようにメインフレーム1上には、前部座席5 f と後部座席5 r とが互いに近接して繰列配置され、前記燃料タンクT は前部座席5 f 下に位置する。前部座席5 f は座部13と背凭14とより構成され、また後部座席5 r は、座部15と、背凭16とより構成される。

前部座席 5 fの左、右両側からその前方にかけて、メインフレーム1 の幅広部には、左、右足乗せスペース17・1 7 が形成され、それらの足乗せスペース17・17に位置する床板 2 は足乗せ面 2 a に形成される。

持開昭59-195421(3)

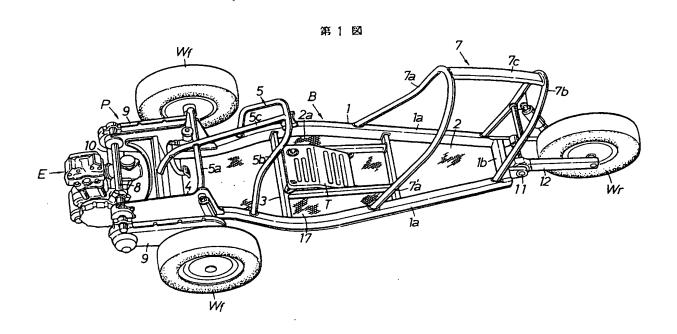
而して前述のように前、後部座席 5 f , 5 r の 様列近接配位により、選転者 M , と同乗者 M , の 体重の作用点は互いに接近しており、したがつて 来員の消滅による車両全体の重心位置の変動を少 なくすることができる。

また運転者 M : および II 東者 M : は、前、後部ロールパー 5 . 7 により保護され、仮部ロールパー 7 の前方 横パイプ 7 c の中間部は下方に向けて折り曲げられ、その下半部 7 c は前方に延びてなだらに傾斜しているので、 阿乗者 M : の乗降が容易である。

以上のように本発明によれば、車体の前、後に三輪を懸架した三輪自動車両において、該車両の重心位置、もしくはその近傍位置に燃料タンクを配設したので、該タンク内燃料の貯留量に増減があつても三輪自動車両の重心位置が変動することがなく、燃料貯留量によつて車両の加速性、コーナリング性等の特性が変るようなことがない。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本乳明三輪自動車の車体の斜視図、第 2図は本発明三輪車の側面図、第3図はその平面 図である。



特開昭59-195421(4)

